

大宮

THE ŌMIYA HACHIMAN

令和元年 (2019)

皇紀 2679 年

奉祝 令和御大典

大宮八幡祭り(秋の大祭)号【第115号】

<http://www.ohmiya-hachimangu.or.jp/>

主な目次

令和の御大典を言寿ぎ奉りて	2 頁
大宮八幡祭り(秋の大祭)のご案内	3 頁
十五夜の神遊び	4 頁
杜の話題	5～8 頁
大宮八幡の杜 秋も深まり	9 頁
初宮詣芳名・どんぐり通信	10・11 頁
大宮八幡祭り社頭風景	12 頁



十五夜の神遊び

令和の御大典を言寿ぎ奉りて 宮司 鎌田紀彦

明治神宮本殿遷座祭に参列

今年は8月8日の立秋を過ぎても酷暑が続く中で8月10日・11日、明年御鎮座百年祭を迎えられる明治神宮の本殿遷座祭が60年振りに行われ、ご案内を頂き参列させて頂きました。

10日の夜7時より勅使筑波堂典次長のご参向のもと遷御の儀が斎行されました。浄暗の中、御仮殿より銅板葺の屋根替えも済み新装になった御本殿へ多くの神職の奉仕のもと静々と入御になる様子を奉拝させて頂きました。翌11日午前10時より、勅使ご参向のもと、奉幣の儀が厳かに斎行され、東遊の奉奏もあり、二日間に亘る厳肅で盛大な祭典でした。記念直会には神宮会館で行われました。

令和の御代の始まりに相応しい祭礼であり、明治神宮は小職の元の奉務先で、35年余りに亘り奉職させて頂いた時のご懐かしき想い出され感激のうちに参列した幸せを噛み締めさせて頂きました。

重儀のつづく令和の御大札

5月1日に皇位に即かれた天皇陛下は、元号も令和と改元され

「剣璽等承継の儀」のあと

「即位後朝見の儀」に臨まれ天皇后として初めて総理大臣始め

三権の長等国民代表に会われました。

5月4日には「御即位一般参賀」が皇居宮殿東庭のベランダで行われ

14万人余の国民から祝福を受けられました。



当宮では5月1日の踐祚改元奉告祭を中祭式により奉仕致しました。

いよいよこの秋には、

○「即位礼正殿の儀」10月22日

皇居の正殿中央に設置された高御座に天皇陛下が登られ、皇后陛下はその左側の御帳台に登られ、御即位を天地内外、公に宣明されます。総理大臣が寿詞を申し上げ、聖寿萬歳を行い、列席の国内外の代表らがお祝いをします。中庭には儀式を彩る旗や雅楽器、装束を着けた人々が並びます。

○「祝賀御列の儀」(22日)

即位礼の後、両陛下は広く国民にご即位を披露され、祝福を受けられるため、皇居から赤坂御用地までパレードが行われます。

○「饗宴の儀」(22、25、29、31日)

即位礼に参列した国内外の代表者を4日間にかけて宮殿に招き、饗宴を催してご即位を披露され、祝意を受けられます。

◎大嘗祭関係

○「大嘗祭前二日大祓」(11月12日)

大嘗祭の2日前、天皇后両陛下のお祓いと皇族方をはじめ関係諸員のお祓い(大祓)が行われます。

○「大嘗宮の儀」(14日(11月の中の卯の日)15日)

天皇陛下がご即位の後、初めて新穀を天照大御神と神々に供え、御自らも召し上がり、国や国民の為にその安寧

と五穀豊穡などを感じて祈られる儀式が大嘗祭です。悠紀地方(栃木県)のお供えを捧げる儀式は14日の夜、主基地方(京都府)のお供えを捧げる儀式は15日の未明に、それぞれ大嘗宮のなかの悠紀殿と主基殿で行われます。

御大札のなかでも秋の大嘗祭は古くから一代に一度の新帝陛下御自ら国民とともに挙げてこられた日本で最大のお祭りです。

悠紀地方、主基地方はもとよりのこと、全国の人々が真心こめて育てたその年の稔りを「庭積機代物」としてを神々に供えられ、「国安かれ、民安かれ」と祈られるのです。

天皇様と私どもの絆は、単に神話に依っているのではなく、常に国と民とともにいっしょにやる両陛下と私共のお互いの信頼と敬愛に基づくものであり、日本全体で挙げる大嘗祭は、そうしたことを改めて実感出来るお祭りでもあるのです。新天皇陛下の御即位に関する儀式の総称を御大札と云い、国事行為や皇室の公的な儀式として、国を挙げて行われます。私共国民の奉祝など全てを含め御大典と申し上げます。

(神社広報「まほろば」第57号より) 申し上げます。

(神社広報「まほろば」第57号より)

御大札に準じて行う当宮の祭礼は、

10月22日(祝・火)午前10時

即位礼当日祭(中祭式)

11月12日(火)午後3時

臨時大祓(大嘗祭前二日大祓)

11月14日(木)午前10時

大嘗祭当日祭(大祭式)

尚、本年度の新嘗祭は行いません。

令和の御大典奉祝 大宮八幡祭り

今年は令和の御大典を奉祝しての大宮八幡祭り(秋の大祭)が斎行されます。去る7月28日の第34回神興合同宮入りの打合せ会

を経て、8月1日の恒例の祭典委員会が開催され、決定されました。

又神興合同宮入りの渡御も発興地点を200m程遠く方南通り、大宮八幡入口に移し氏子6地区10基の御神輿が集結する事となりました。

9月14日(土)宵宮祭、15日(日)神社本庁よりの献幣使参向のもと例祭に併せて氏子奉幣祭が斎行されます。

即位礼正殿の儀、大嘗祭、皇位に即かれて最初の新嘗祭は天皇ご二代に一度限りの重要なお祭りで大嘗祭と云い、特に盛大に行われます。

これらの御大札が盛大に賑々しく斎行されることを神々に祈り、ご奉祝申し上げ、感謝の誠を捧げ、ご皇室を中心とする我が国の隆昌と世界の平和を祈念します。さらに、五穀豊穡を感謝すると共に、あらゆる産業併せてご家業の繁栄成就を感謝し、氏子・崇敬者のご家族の平安をお祈り致します。

15日夕刻より行われる第34回神興合同宮入りは10基の御神輿が一体となつて、聖なる拝殿前広場に勢揃いして、所狭しと繰り広げられる神輿振りは祭りの最高潮となります。大宮八幡の聖なる杜は熱気に溢れ、御神輿を担ぐ人々も陪観の人々も、凡そ五千名の人々で興奮の坩堝と化し、神々と神人楽の境地を体感して頂くひと時であります。

又神々よりの靈妙な波動も伝わり、心の甦りを感じて頂く感動のときでもあり、将に城西随一の御神輿振りの圧巻であります。

最後に当番御神輿の「き」が入ると、一瞬にして動から静に移るこの瞬間も神業であります。

神々もより若々しく清々しく甦られる八幡大神様、聖母大神様の広大無辺なご神威を感じて頂く大宮八幡祭りに多くの方々にお参り頂き、心安らかな日々をお過ごし頂くことを願って止みません。

(令和元・8・13記)

奉祝 令和御大典

大宮八幡祭り(秋の大祭)

例祭、氏子奉幣祭、第34回 神輿合同宮入り



御大典を奉祝して、実りの秋を迎え、恒例の**大宮八幡祭り**(秋の大祭)が行われます。本年はまず14日に**宵宮祭**、15日午前10時には神社本庁より献幣使が参向して**例祭**、併せて**氏子奉幣祭**を斎行し、秋の実りの感謝と皇室と国家の安泰を祈念します。大宮・方南南・方南北・和田東・和田西・松ノ木の6地区より寄せられた赤誠こもるご浄財が氏子幣として大前に奉献されます。氏子各地区の神輿の社参もあり、さらに夕刻6時の第34回**神輿合同宮入り**では望月夜の中、氏子6地区10基の神輿が一斉に宮入りして祭りは最高潮に達します。このほか14日には大宮幼稚園園児の民謡踊り・方南エイサー・杉並太鼓の各奉納があります。また15日午後には小笠原流宗家による弓の神事**草鹿式**を実施。16日には6年振り2回目となる、いけばな小原流献花式等。期間中は様々な神賑行事が奉納されます。清涼殿ロビーでは9日より16日まで、重陽の節句**菊被綿飾り**が展示されます。

第34回神輿合同宮入り

15日夕刻午後6時、木遣りの音頭を合図に、今年は御大典を奉祝して、渡御の道筋を延伸。方南通り大宮八幡入口を発興した各神輿は一の鳥居、二の鳥居をくぐり、多勢の参拝者で賑わう表参道を進み、神門を通過して大前に参入。社殿前の定位置に10基が揃い、神輿振りが一斉に繰り広げられ境内は興奮の坩堝と化します。その光景は将に城西第一といわれています。



大宮八幡祭り期間中の祭事

菊被綿神事 9月8日夕刻〜翌朝

神輿神霊入れ祭 9月13日

若宮八幡神社 例祭 9月13日

白幡宮 例祭 9月13日

各神幸所清祓・宮司巡拝 9月14日

宵宮祭 9月14日

例祭・氏子奉幣祭 9月15日

第34回 神輿合同宮入り 9月15日

神輿神霊返し祭 9月16日

いけばな小原流献花式 9月16日

終了奉告祭(直会の儀) 9月16日

神賑行事 9月9日〜16日

第21回 菊被綿飾り 9月7日〜16日

奉納書画行燈 9月7日〜16日

献燈提灯 9月7日〜16日

秋の弓道奉納射会 9月8日

大宮幼稚園園児神輿宮入り 9月13日

第41回 献華いけばな小原流展 9月14日〜16日

盆栽展示会 9月14日〜16日

大宮幼稚園園児民謡踊り 9月14日

方南エイサー踊り 9月14日

杉並太鼓 9月14日

奉茶(裏千家) 9月15日

スカウトバザー 9月15日

町内神輿渡御・社参(昼間) 9月15日

野点茶会(裏千家) 9月15日

スカウト神輿宮入り 9月15日

高井戸囃子 9月15日

舞楽(俊成雅楽会) 9月15日

小笠原流草鹿式 9月15日

第6回フォトコンテスト作品展 9月15日

露店「120店」 9月14日〜16日

第19回 十五夜の神遊び(仲秋祭) 10月12日

第21回 重陽の節句 菊被綿飾り

9月9日の重陽の節句の「陽」とは太陽のことであり、中国では昔は1から9までのうちの奇数を縁起の良い陽数としました。重陽は陽数の極みである9が重なるという意味で、この頃に咲く花が菊であることから菊の節句とも呼ばれ、毎年この日より菊被綿飾りを清涼殿で展示公開しています。菊は、古代中国では仙境に咲く花



で破邪延寿の効能があると信じられ、平安時代前期の宇多天皇の御代に「菊被

綿」として宮中行事に取り入れられ、幕末まで行われていました。重陽の前日の9月8日に菊の花を白、赤、黄の真綿で覆って菊の香りを移し、9日早朝、朝露で湿った真綿を顔にあてて若さを保とうとするもので、当宮では、

菊被綿神事を8日夕刻に斎行し、菊被綿飾りを9月9日から16日まで清涼殿で展示します。



第19回 十五夜の神遊び 月の音舞台

第19回

十五夜の神遊びが今年は旧暦9月13日の十三夜の翌日、10月12日に斎行されます。十五夜



の神遊びは平成13年より催されており、夕刻にはまず陪観の人々によつて竹燈籠約1300基に火が点灯され、仲秋祭が斎行されます。その後、神樂殿では雅楽や神樂舞の奉奏に続いて、月の音舞台となります。昨年に引き続き、広く国内外で注目を集める尺八奏者「き乃はち」氏の奉納演奏が行われます。き乃はち氏の尺八の調べは、名月に照らされながら、虫の音とともに鎮守の杜に響き渡り深く閑かに心に染み渡ります。また、清涼殿ではこの日に因んだ特選料理「月見御膳」をご用意し、美味いだく月見の宴も催されます。



は、名月に照らされながら、虫の音とともに鎮守の杜に響き渡り深く閑かに心に染み渡ります。また、清涼殿ではこの日に因んだ特選料理「月見御膳」をご用意し、美味いだく月見の宴も催されます。

「月見の宴」のご案内

清涼殿では、「十五夜の神遊び」に因んだ特選料理『月見御膳』をご賞味頂く「月見の宴」を月の音舞台終了後に（午後8時頃より）開催します。

名月を愛で、古式ゆかしい雅楽・神楽の調べや尺八の演奏をお楽しみ頂いた後、十五夜の雅と幽玄の余韻の中、「月見の宴」をお楽しみ頂きますようご案内申し上げます。

定員になり次第締切りとなりますので、お早めにお申し込み下さい。
※雨天でも「十五夜の神遊び・月の音舞台」は行われます。

お申し込み・お問い合わせは

大宮八幡宮 清涼殿まで

03(3312)7515

【月見御膳】◎御神酒付

お一人様 5,900円(税込)

『月の音舞台陪観指定席』含む

限定1000名



献燈提灯奉納のご案内

大宮八幡祭り（秋の大祭）の期間中、多くの参拝者をお迎えするに当たり、皆様方のお名前（ご社名）を入れた献燈提灯を掲出し、ご社頭を賑々しくお飾りさせて頂きたく存じております。つきましては、左記によりご献燈賜りたく宜しくお願い申し上げます。

記

掲出期間 9月7日から10月15日まで

初穂料 一燈一〇,〇〇〇円

申込締切 9月6日（郵送は5日必着）

※詳しくは社務所にお問い合わせ下さい。



※複数燈でも承ります

杜の話題

御代替りに諸祭典を奉仕

平成から令和への御代替に当たり、宮中では御譲位と御即位の諸儀式が催されましたが、当宮でも踐祚改元の奉告祭を斎行、八幡大神に御代替りをご奉告申し上げました。4月29日には、**天皇陛下御譲位御安泰祈願祭**併せて**昭和祭**を斎行。天皇陛下の大御心に感謝の誠を捧げました。また新帝陛下踐祚の5月1日には、**天皇陛下踐祚改元奉告祭**併せて**躰躰育木祭**並びに**皐月朔旦祭**が斎行、新しき大御代の弥栄を祈念申し上げました。

改元の御朱印を求めて参拝者が

境内は御代替りをお祝いで多くの参拝の方々が賑わいましたが、特に5月1日には令和初日の御朱印をお受けになられる参拝者が早朝より長蛇の列をなし、午後6時の閉門までに約千人の方々が御朱印を受けられました。



わかば祭り(春の大祭)斎行

本年の当宮わかば祭り(春の大祭)は、天皇陛下の御即位御大典を奉祝して諸祭典が厳粛盛大に斎行され、多くの参拝者で賑わいました。3日午後には、春の大祭**第一日ノ儀**こどもの祭



り(稚児健康祈願祭)と稚児行列が行われ、51名のお稚児さんが参列しました。稚児行列には御即位を奉祝して、氏子6地区各睦会・



氏子青年会による御神輿の渡御も行われました。4日は、春の大祭**第二日ノ儀**を斎行。祭典の後、神楽殿にて第19回**若葉inお**おみやが開催され、神職の唄い手涼恵氏による演奏が行われました。幼い頃より神社で育ち、山川草木の語らいに耳を澄まし、言霊を唄うと評され、洋楽器に龍笛、神楽鈴を取り入れた独特の音楽世界で日本の調べを奉納演奏されました。また、当宮挙式者の参列もあり、引き続き第19回**挙式者の集い**が清涼殿にて開催されました。午後には、**植樹祭**(献木式)が当宮みどりの会主催のもと執行。祭典後には参列者の方々に観葉植物が授与されました。最終日の5日は、春の大祭**当日祭**(尚武祭)が斎行され、皇室国家の安泰・氏子崇敬者の繁栄が祈念されました。殊に関東では初めてのお披露目となる**京都嶋原太夫社参道中**が華やかに美しく奉納されました。また、



期間中は、古武道武技奉納、杉並太鼓・方南エイサーの奉納演奏、**大宮八幡植木市**等も開催され、終日大勢の参拝者で賑わいをみせました。

第20回裏千家献茶式



第20回裏千家献茶式が5月11日に行われました。茶道裏千家今日庵鵬雲斎千玄室大宗匠(先代15代家元)ご奉仕のもと、厳かにご神前に濃茶と薄茶が献じられました。また併せて、裏千家淡交会東

京第7西支部の担当主催による奉賛添釜茶会が早朝より開かれ、濃茶席・薄茶席・立礼席の3席が設けられ賑々しく催されました。大宮幼稚園では恒例の幼稚園茶席が開かれ緊張した面持ちの園児たちが、日頃の練習の成果を披露しました。

神功皇后七十五周年式年大祭

本年は、ご祭神神功皇后様が神上がられてより千七百五十年の式年に当たり**神功皇后七十五周年式年大祭**を斎行しました。まず、遙拝



所にて宮司以下祭員・参列者35名は修祓の後、御陵の狭城盾列池上陵(奈良県)を遙拝し、次いで社殿にて式年大祭を斎行いたしました。

ご祭神の神功皇后様は、応神天皇（胎中天皇）を身ごもつたまま「三韓の平定」に向かわれ凱旋後にご出産になりました。中世の文書には、天照大神様の再来と云われすぐれた統治能力のある第15代の女帝として記され、八幡大神のご生母、聖母大神（聖母大菩薩）としてもご神威を発揚され根強い崇敬を受けられてきました。当宮では古来より戌の日には安産祈願で多くの方々がお参りされます。聖母大神（聖母大菩薩）と八幡大神（八幡大菩薩）の母子信仰（聖母信仰）が当宮にも伝承されているのです。

篠山鳳鳴同窓会関東支部の集い

6月16日、兵庫県立篠山鳳鳴高等学校の第12回篠山鳳鳴同窓会関東支部の集いを開催（支部長は当宮宮司、隔年に開催）しました。

篠山市は市制20周年記念に市名を新帝陛下踐祚改元の5月1日に、**丹波篠山市**と変更しました。（全国に報道された）今回は丹波篠山市の誕生を祝う関東支部の集いとなりました。校祖青山氏、副市長、同窓会会長、母



夏越の大祓神事

水無月夏越の大祓神事が、6月30日午後4時より齋行されました。今年前半の知らず知らずに身についた罪穢を祓清め、気持ちを新たに

の大祓式が年少組親子、年中年長組の2回にわたって行われました。



平安の雅び第21回乞巧奠飾りと平成の七夕大宮八幡乞巧潜り神事

平安朝の七夕飾り乞巧奠を再現した乞巧奠飾りが、7月1日より15日まで清涼殿ロビーで展示公開されました。乞巧奠は古代中国の牽牛織姫の星祭り伝説とわが国の棚機つ女伝説が結び付いた行事で、当宮では天皇陛下御即位十年を奉祝して、平成11年より行われています。7日の夕刻には社殿にて**七夕の神遊び（技芸上達祈願祭）**が斎行され、次いで神門前に設けられた梶の葉に七夕人

残る半年を迎えます。神門前広場の茅の輪前にて、まず、宮司以下祭員、参列者全員で大祓詞の奉読、切麻と形代にて自祓の儀の後、天と地が祓われました。生憎の雨の中、約500名の参列員は列をなして左右と茅の輪を3度潜り社殿に進みました。茅の輪神事に引き続き社殿では、**大祓修了奉告並びに大祓詞等浄書奉納奉告祈願祭**を斎行。6月15日から23日まで開かれた大宮八幡塾主催の**水無月書写会**（大祓詞書写会）で、りんどう会会員はじめ氏子崇敬者96名が浄書した大祓詞が大前に奉納されました。尚、前々日の28日には大宮幼稚園

大祓形代流し旅行

7月16・17日、夏越しの大祓で納められた形代を灰にして流し清める**大祓形代流し旅行**が行われました。今年は24名の参加で、まず福島県郡山市に鎮座する郡山総鎮守 安積國造神社を正式参拝の後、桜並木で有名な「あさひ公園」

形、五色の吹き流し、五色の布を垂らした**平成の七夕大宮八幡乞巧潜り**を約60名の参列者が神職の後に続いて左右左右と3度潜る乞巧潜り神事を行いました。その後、清涼殿ロビーに進み乞巧奠に拝礼。また拝殿前には、笹竹飾り（7本）が設えられ参拝者は銘々に願い事を色々な形の短冊に書き、数多くの短冊で笹竹が鮮やかに彩られました。6日と13日の土曜日の夕方には、乞巧奠前にて**雅楽の夕べ**が催され、雅楽の調べと豊栄舞・朝日舞・浦安舞が奉奏されました。



のそばを流れる北須川にて形代流し神事を斎行、その後母畑温泉で大露天風呂の湯巡りをし、日頃の疲れを癒やしました。翌17日は、奥州一ノ宮 都都古別神社を正式参拝、磐城常陸を巡り、ひたちなか市の阿字ヶ浦で海の幸の昼食を満喫して帰途につきました。

職場体験

今年も職場体験に中学生の皆さんが来宮しました。神明中6月5日～7日、女子2名。松ノ木中6月24日～26日、男子3名女子1名。松溪中7月1日～3日、男子1名。大宮中7月9日～11日、女子3名。西宮中7月10日～12日、女子2名。神職の指導により白衣袴の着装、境内の説明、掃き掃除、授与所勤務、大祓詞の書写、雅楽の稽古など、また七夕笹飾りの飾り付けや、短冊づくりなども体験しました。



国旗協会「国旗のある自由画コンクール」金銀賞入選作品展

6月18日より7月8日まで、国旗協会主催の「国旗のある自由画コンクール」巡回展が開かれ、入選の作品が神門北翼廊ブルーボードにて展示されました。大宮幼稚園園児の作品も銀賞に入選しました。



第19回納涼大宮天神こどもまつり 「杜のひびきin おおみや」

大宮八幡の夏の風物詩第19回納涼大宮天神こどもまつりが7月24・25日の両日、行われました。24日は神門前にて本年初めての奉納日光猿軍団の演芸猿まわしが行われ、



多くの子供たちが楽しみました。午後5時30分より宵宮祭を斎行。25日には大宮天神祭が斎行されました。大宮幼稚園をはじめ近隣の小学校、子供園、女子美術大学、一般の有志の方々より寄せられた約540点の書画が貼られた行燈362基に両日とも夕刻より灯りが入れられ、参道・境内を照らしました。また、たくさんのお供え品が並び、賑やかに境内を巡り、神門前広場では子供ミ



二花火の集いも行われ、午後6時30分より第19回杜のひびきinおおみや（時間をはずした日の神事）が開演。和太鼓の響道宴氏による奉納演奏で、今年はいま線や剣舞も加わり、迫力のある和太鼓のコーラボーショーンが鎮守の杜に響き渡りました。

れました。午後6時30分より第19回杜のひびきinおおみや（時間をはずした日の神事）が開演。和太鼓の響道宴氏による奉納演奏で、今年はいま線や剣舞も加わり、迫力のある和太鼓のコーラボーショーンが鎮守の杜に響き渡りました。



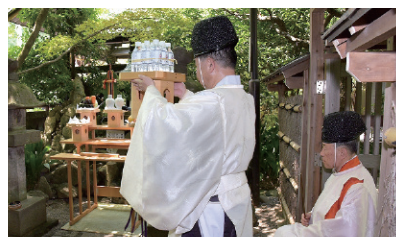
猛暑をしのぐ

連日の猛暑対策として、神門北翼廊ブルーボード前によしずきのお休み処を開設しました。天井には数々の風鈴を付け、ミストを配置して冷やし甘酒とともに一時の涼を提供しました。



多摩清水社例祭

8月1日、葉月朔旦祭に続いて多摩清水社例祭（水神祭）が斎行されました。俳人阿波野青畝の句碑には、「広き野に霊の清水のあるところ」と詠まれ、「多摩の大宮」と称えられた武蔵野の古の姿を伝えるように、今なお御神水が湧き出ています。水に感謝を致しますよう。



比叡山「世界平和祈りの集い」に

8月4日、比叡山宗教サミット32周年記念「世界平和祈りの集い」が比叡山延暦寺「祈りの広場」で開催されました。炎天下、内外の諸宗教代表や市民、青少年ら約900名が平和の祈りを捧げ、令和の時代に恒久平和実現の誓いのメッセージを若者らも発表しました。本年も宮司が参列しました。

第36回戦没者慰霊祭

終戦記念日の8月15日、氏子区域より出征された英霊等をお慰める第36回戦没者慰霊祭が清涼殿特設斎場にて斎行されました。今年も全国戦没者追悼式に合わせ正午の時報を合図に黙祷し、次いで天皇陛下のお言葉をテレビを通し拝聴の後、慰霊祭を行いました。当宮と兼務社の氏子の英霊329柱に感謝し、慰霊と追悼の誠が捧げられました。



氏子青年会だより

大宮天神こどもまつりに

7月24日、25日の「納涼大宮天神こどもまつり」に模擬店を出店しました。天候に恵まれ焼そばやかき氷、ヨーヨーつりなど盛況でした。



りんどう会だより

清掃奉仕

わかば祭り（春の大祭）を控えた、4月26日御垣内の清掃が行われました。鎌田会長他12名の会員によって、隅々まで掃き清められました。



都敬婦連総会

6月21日、東京都敬神婦人連合会（鎌田民枝会長）の総会が清涼殿で開催され都内6単位の婦人会役員17名が出席。開会に先立ち正式参拝が行われました。

水無月書写会

大宮八幡塾水無月書写会が6月15日から23日まで神社と共催で行われ、30日の大祓神事のあと、96巻の大祓詞が神前に奉納されました。また、大宮幼稚園の園児等手作の飾りが会員の奉仕によって丁寧に小笹に飾り付けられ、福笹として約300体が大祓参列の方に授与されました。



第13回総会

6月10日、第13回総会が清涼殿にて宮司、藤枝責任役員を迎え、開催されました。鎌田会長・五本木副会長以下34名が出席しました。



★当会では随時会員を募集しております。ご入会希望の方はお気軽に社務所事務局にご連絡下さい。

戌の日詣りは

聖母大神・子育八幡さまの当宮で安産祈願祭を！

※戌の日以外でも随時お受けしております
ご祈願の方には大宮八幡息長帯（安産腹帯）と共に、へその緒で結ばれたお母様とお子様健康にご出産の時を迎えられますようにとの願いが込められた「母子緒守」と「安産祈願絵馬」を特別に授与しております。



戌の日早見表

（令和元年9月～令和2年1月）

9月	10月	11月	12月	1月
10日（火）	4日（金）	9日（土）	3日（火）	8日（水）
22日（日）	16日（水）	21日（木）	15日（日）	20日（月）
	28日（月）		27日（金）	

は大安の日です

大宮八幡の杜 秋も深まり

即位礼並びに大嘗祭

10月22日 即位礼当日祭 中祭式
11月12日 臨時大祓(大嘗祭前二日大祓)
11月14日 大嘗祭当日祭 大祭式

天皇陛下には、この秋、即位礼正殿の儀を執り行われ、皇祖皇宗にご奉告、広く内外に御即位を宣明なされます。当宮においても謹んで神明奉仕の誠を尽し、氏子・崇敬者ともども**即位礼当日祭**、さらには大嘗宮の儀(即位礼の後、天皇始めて新穀を召されるに当たり、先ず皇祖天照大神を始め奉り、天神地祇にお供えし、御自らも食され、神々と共に相嘗め遊ばす御一代御一度の新嘗を大嘗祭と申し上げます)の、11月14日に**大嘗祭当日祭**として厳肅に執行いたします。大宮幼稚園の稲田で園児たちが丹精込めて植え育てた稲穂をはじめ、氏子・崇敬者や企業よりたくさんのお穀・神酒、野菜・果物などが**庭積神饌**としてご神前にお供えされます。

第41回 杉並大宮菊花展



杉並大宮菊の会の主催、杉並区の後援による**杉並大宮菊花展**が10月下旬より11月24日まで開催されます。杉並区内外在住の菊の愛好家の方々が月毎に「菊づくり講習会」を開いて丹精込めて作られた様々な菊の大輪が境内を彩ります。特に七五三文字菊は当宮独特のもので、シーズンになるとたくさん七五三詣でのご家族がこの前で写真を撮る光景が見られます。



神符奉戴式を斎行

11月初旬には、**神宮大麻頒布式並びに氏神社神符等奉戴式**が斎行されます。ご神前において大宮大麻・三宝荒神などの御神札に御霊遷しをして、神宮大麻と併せて頒布始めの由を大神様にご奉告致します。各ご家庭や会社の事務所の神棚に、神宮大麻や氏神様の新しいお札をお祀りして、令和2年の新春を清々しく迎えましょう。



第29回 杉並花笠祭り



初冬の風物詩となった**第29回杉並花笠祭り**が、12月14日(土)に、当宮とサミット株式会社主催、山形県などの後援で開催されます。当日はまず**杉並花笠祭り**開催奉告祭を斎行し、その後御神酒の鏡開きや花笠踊りのパレードが奉納されます。表参道では芋煮や地酒がチャリティで振る舞われ、山形特産の農作物などの露店が立ち並び、3万人を超える参拝者で賑わいます。



祝 七五三詣

七五三年齢表		
七歳	女児	平成25年生
五歳	男児	平成27年生
三歳	男・女児	平成29年生

※生まれ年と年齢は数え年によるものです。
満年齢でお受け頂いても差し支えございません。

七五三レンタルプランご予約会

ご予約会日：毎日朝10時～夕方5時まで開催

お子さまの健やかな成長と幸せな未来をお祈りする七五三詣。晴れの日を迎え、お子さま自身もひとつ成長した誇らしさ、可愛らしさを胸一杯にすることでしょう。だからこそ、大切な記念日をご家族皆さまの大きな愛で素晴らしい一日にしてあげましょう。

大宮八幡宮で全てを決め頂ける展示ご予約会のご案内です。七五三のお祝い当日も同じ会場で実施致します。熟練のスタッフが参拝される皆様の大切な記念日をお手伝いさせて頂きます。

皆様のご来会を心よりお待ちしております。

令和2庚子年

「新春初祈願祭」のご案内

当宮では、令和2庚子年の新春にあたり、皆様のご健勝・ご繁栄をお祈りする**新春初祈願祭**を1月1日午前0時より連日随時ご奉仕致します。

12月1日より授与所にて受付致します。

また企業や団体関係の皆様には、仕事始めの祈願祭のご予約も承っております。

年の初めに、社員・ご関係の皆様お揃いで八幡大神様の御神徳を戴かれ、新しい年が幸多き更なる発展の年となりますよう祈願祭を奉仕致します。

初宮詣り名簿

(平成31年3月21日(令和元年7月20日))

お子様のお健やかな成長をお祈り致します

小林椿	滑川喜世	田中結月	中島終人	尾崎奏太	矢口理人	金子睦	徳愛香
富田莉央	今岡陽菜子	光岡燎彦	逸見彩椰	松本朝陽	和田伍生	平田律	谷口遥
滑賢人	古島稜	菊地睦	風間凱	野口健介	長谷川結大	織田流維	河原昂汰
宮川愛	内田彩葉	黒澤律	太田律	堀之内杏	山田えみ佳	阿部なつき	永井綾乃
辻真侑花	山崎朱莉	崎山あかり	西野小梅	津津宮千晃	加古菜々美	小室里紗	高野楓
安藤彩華	海老澤翔	大久保杏都	松本龍司	笹渡祐衣	竹信律花	金子晴人	木村咲菜
宅島光希	大木奏空	田畑樹季	佐藤遼英	三宅凛歩	吉田悠人	鈴木杏	落合玲奈
川口真大	平尾咲奈	才所ひなた	塚本さくら	秋山あさひ	小久保晴天	藤山怜俐	池上太喜
村田来瞳	武田光成	勝谷未来	甲斐大翔	田中理太	鈴木瑛大	神戸義弥	市川結菜
大釜穂	松本和奈	笹子三葵	宮本松奈	矢北帆花	三戸雪	塙雪那	内田晴人
萩原陵介	矢島睦翔	安田結	岸泰生	上野愛	麻湊心	濱野統	水田紘稀
菅野杏美	山本遠柚	仲子晴	加藤希青	土屋咲太朗	菅澤々佳	住本唯	高橋彩葉
菅野笑笑	宮本汐梨	吉岡志織	奥野和太	酒屋志織	菅澤々佳	松本里咲	金子響
小池琳太郎	橋口優翔	近河七花	大杉美結	諸見里歩	葉山勢生	佐和田忠信	道明桜椰
武田美子	岩崎剛玖	今西絃	河合颯斗	田村理穂	飯塚晴貴	太田紗蘭	樋川尚平
五月女波琉	齋藤和真	長野由延	鳥居煌世	神田高翔	林建智	澤田悠吾	菅原麻弘
佐藤樹希	山西純	鈴木歩果	長澤泰帆	藤井終弦	服部主	松本佳歩	小川英
岡川透花	石井愛奈	西田楓	井上紗希	松崎光鶴	大山陽菜乃	岩知咲輝	廣瀬嘉春
西原翼	大高義斗	瀧谷玲雄	内海律玖	金子隼士	手嶋文博	川野紗千	河原咲希
濱田結人	角地美智華	松井瑞樹	阿部傑	堀脇雅	森桃々	河原井時月	倉谷郁人
宮野原陽人	古和佑明	三浦有加里	柳川美緒	室井敬仁	西部寿亮	宮本龍之介	大石衣純
河寄遥真	橋本旺誌郎	関松介	柳山瑛太	伴野心飛	春野心咲	平原快清	高橋菜歩
門松優佑	深見和加	今林香絵	西山湊音	松永樹	坂口いおり	鈴木瑛麻	伊藤桜
石井大雅	村上陽岳	藤田莉緒	奥村武琉	松永碧海	佐藤さくら	加藤菜子	田淵利央
細井幸太	仲田莉都	安岡蓮唯	酒井一瑛	奥寺恭士	大伴柚心	高田佑人	北川すみれ
浅村蒼	大河原一実	石橋奈那美	後藤琴音	石塚文乃	石原怜真	浜渡空	川崎智里
尾畑翔真	寺部重	吉田秀	長谷川凜	谷口樹紀	伊夫伎祥太	大城瑠花	綾部空
中澤沙耶	野田菜月	中村保乃華	山口寛暉	大久保陽生	菅原桃李	日置桜	黒須利乃
小郷泰史	山田侑果	鈴木惟月	山崎篤人	岡田滯奈	飯橋心遥	高橋真紘	江田百希
北湯口稀	上杉未桜	桑貝純	竹内落	岡田唯花	高木琥春久	鈴木宝元	高松尚太
関律	七井奏海	室井英玲奈	石橋空来	橋あかり	桐山瑠子	鈴木慎人	小林駿太郎
我妻泰汰	清水響子	籠谷もも	嶋野史堂	相羽咲良	鈴木慎人	山本紘葵	渡部豪
大江柊馬	浅野快辰	小泉澤	千野根一華	中野明	鈴木護	林賢生	三輪 颯
谷口絵麻	小笠原未月輝	室井英玲奈	石橋空来	岩井優磨	荒木志道	柴田佳	橋本侑奈
山盛想真	吉本季生	小林さえ	千野根一華	岩井優磨	中野明	鈴木護	林賢生
泰地央	平野舞	小山莉穂	岡谷悠大	荒木志道	中野明	鈴木護	林賢生
笠島唯衣花	羽柴風臣	高崎秀治	小川湊大	矢内曉梨	武井風操	橋本侑奈	小坂大海
秋山湊	山根千華	高橋花蓮	池田利来				
升田光咲							
鈴木然							

どんぐり通信

おおかやうらん

デンマーク式自転車ゲーム

「楽しかったー!」「もつとやりた
い!」「もう終わりなの?」自転車
ゲームが終わった時の子どもたちの第
一声。6月のある日、在園児のお父様
のご紹介で年中組の子どもたちが、デ
ンマーク式自転車ゲームに参加しまし
た。体操着の上にビブスを着て、ヘル
メットを被り、キックバイクに乗り準
備万端。インストラクターとアシスタ
ントの方々の自己紹介・挨拶の後、い
よいよゲーム開始。最初は、シャボン
玉ゲーム。マシンから噴射されるシャ
ボン玉をつかま
えます。初めは、
キックバイクに
乗らずに、次にキ
ックバイクに乗
って手をつかみ、最後
は、ハエたたきで
たたきます。子
どもたちはシャ
ボン玉をつかま
ようと必死に追
いかけていまし
ました。次は
カラーリングゲ
ーム。トラック
内にばらまか
れた4色のカラ
ーリング、前の
タイヤを赤の
リングの上に
乗せて、「オレン
ジ色のリング
をヘル



メットの
上に乗
せて」の
指示で
動きま
す。最
後にパ
レー
ド。子
ども
たち
がキッ
クバイ
クに
乗っ
てトラ
ック
を回
りなが
ら、途
中
にある
タンバ
リン・
カステ
ネット
をた
いたり
、大波
（青
い布を
波立た
せる）
の下を
くぐつ
たり、
大岩（
バラン
スポー
ルをこ
ろがす
）に
当た
らない
よう
に進
んだり
、ビヨ
ー
ン（川
に見立
てて
間隔を
空ける
）は
地面に
足を
つけ
ず
に飛び
越えま
す。
初めは
恐る恐
る乗っ
ていた
子ども
もだん
だんス
ピー
ドが出
てきて
、笑顔
がいっ
ぱい
でした
。デン
マーク
では、
多くの
幼稚園
・小学
校で実
施され
ていて
、「遊び
ながら
学ぶ」
をコン
セプト
とし、
ゲーム
を楽し
んでい
る間に
自然に
バラン
ス感覚
や運
転スキ
ルを養
い、他
者への
思いや
りや危
険回避
能力も
身に
つくそ
うです
。「楽し
い」「自
由」が
キーワード
。40分
間、汗
をいっ
ぱいか
きなが
ら、思
い切り
楽し
んでい
ました
。この
ような
貴重な
経験
をさせ
ていた
で、ま
た一つ
チャレ
ンジす
る気持
が育っ
たよう
な気が
しま
す。次
の日、
地球儀
でデン
マーク
を探
して、
大喜
びの子
どもた
ちでし
た。

主任 丸山尚子



中野菜々彩	森田恭平	市川晴仁	岸本桜和	関いつき	亀田萌乃佳	井野口湊一	西川麦	橋紫歩	奥住凌	岩本心春	槇陽生
川井咲弥	須田楠奈子	太田悠斗	小林詩	金田柳義	菊池颯太	辻燈吾	檜山浩希	辰己朝	石橋遼磨	鈴木通大	山田怜翔
綾藤幸斗	沖津陽斗	嶋崎菜乃	河野壹星	昆美織	古澤健吾	三田村匠	大竹優希	齋藤光汰	赤松星吾	浅井瑛真	笠嶋明花莉
貫井結斗	高安晶子	東終里	山口莉帆	奥津瑛莉咲	田中陽祐	白井碧	竹内絢音	三田千紘	一箭伶良	稲原康太郎	新井稀子
鎌田都花	中嶋朗	清水朝日	永山更桜	梅田涉	坂井風	梶田琉美子	関山千杏美	三代川楓	辰巳弦王	萩原理帆	鶴見全
高嶺昊	加藤湊	馬場應吏	島田千颯	富田早恵佳	上川士満	今野結月	庄司仁胡	太田望晴	磯貝昂志	中村萌花	小川桜友里
高嶺蓮	野村奏太	坂本羽奏	平本紗弥	坂本早恵佳	高橋颯太郎	萩生彩未	本間蒼人	宮脇大誠	磯貝歩乃未	増岡侑	吉野彩月
星野優心	五十嵐一華	松隈結愛	幸福澤	長澤虎雅	室町京佑	後藤和也	吉岡瑠桜	深田怜央	島田禪之介	安本莉央	須古誉
井上寿々花	志村光優	関隼乙	加藤葉菜	後藤明中	中西梨紗	永井櫻子	上原功大	松島識	本多瑞葵	長屋侑菜	塩見海翔
座間快都	千綿才誠	西彩花理	安田かや	持井瑞登	永井櫻子	永井櫻子	水上凱斗	栗原大和	川口咲来	鶴田海斗	葦塚凌石介
片平萌	橋本昂	伊達環	鈴木瑠璃子	鶴岡莉奈子	郡司六花	木下想太郎	豊田フィッシュ	難波あづさ	鶴田陸斗	土田悠太	濱村奈那美
近藤大晴	小林美桜	浦野恵佑	菅原麻菜美	長崎芹奈	橋爪玄	青戸わこ	山下可桜	木ノ根環太	古下蓮士	山崎詠太	山田章人
狩野航生	市村維都	中山誠大	平塚新渚	渡邊温斗	栗原健人	生井翔	松原由明	木下友歌菜	福野心菜	岡村侑真	新海和花
浅田凜桜	大塩双葉	小宮充希	木下蒼惟	渡邊温斗	福井蒼空	工藤朱透	佐藤咲花	穴吹旭	齊田梓葉	井上和七	宮山和駿
白川拓慎	安部里音	朴志優	石井榮美莉	萩布至	前田笑瑚	太田蒼人	吉岡侑汰	荒川れん	勝山陽喜	武田麻矢	山下瑠仁
吉井遥子	北条人	笹渡葵	今田楓花	立岡あかり	平野桃子	倉橋楓	山田夢織	穴吹旭	西野航輝	西田新	中湯樹
仙洞田佳緒	伊藤深勇	田邊紫	服部由奈	高木万緒	小川龍世	重福奏佑	堀内大暉	若木悠理	丸山悠稀	吉見咲多郎	河内いほな
中井翔太	岩崎愛生	正埜小春	石川華瑚	津嶋悠介	櫻井陽翔	山田梨加	石毛晴	山口奏花	山口奏花	安田凜月	森川総介
松田春永	納富瑛大	萩野谷颯斗	加藤希侑	間庭和花	馬込十詩	高橋穂華	余田幸樹	佐々木澤風	佐々木澤風	佐々木澤風	佐々木澤風
鎌田明希	萩野谷颯斗	加藤希侑	間庭和花	馬込十詩	高橋穂華	余田幸樹	佐々木澤風	佐々木澤風	佐々木澤風	佐々木澤風	佐々木澤風
小阪遙貴	高田健人	馬込十詩	高橋穂華	余田幸樹	佐々木澤風	佐々木澤風	佐々木澤風	佐々木澤風	佐々木澤風	佐々木澤風	佐々木澤風
佐々木澤風	高山蒼豊	村山遥	山谷嘉千	布施杏菜	坂本悠妃	高田蒼太	鈴木心琴	有富百華	高橋織義	川西芳	宮崎利緒
鈴木琉生	田邊緑	山谷嘉千	布施杏菜	坂本悠妃	高田蒼太	鈴木心琴	有富百華	高橋織義	川西芳	宮崎利緒	西田草羽
森昂晴	小野福乃	山谷嘉千	布施杏菜	坂本悠妃	高田蒼太	鈴木心琴	有富百華	高橋織義	川西芳	宮崎利緒	西田草羽
野村淳	川口よき	砂川陽太	代市楓	大角勇心	室町泰晴	長田仁	高木湊太	齊藤葵	阿久澤潤恋	横田舞莉	青江楓大
吉田岳弘	松井燦仁	代市楓	大角勇心	室町泰晴	長田仁	高木湊太	齊藤葵	阿久澤潤恋	横田舞莉	青江楓大	青江楓大
遠藤暖大	宇都宮想馬	大角勇心	室町泰晴	長田仁	高木湊太	齊藤葵	阿久澤潤恋	横田舞莉	青江楓大	青江楓大	青江楓大
中村奏仁	平松太志	伊藤誠悟	石田一步	阿久澤潤恋	横田舞莉	青江楓大	青江楓大	青江楓大	青江楓大	青江楓大	青江楓大
伊藤誠悟	石田一步	阿久澤潤恋	横田舞莉	青江楓大	青江楓大	青江楓大	青江楓大	青江楓大	青江楓大	青江楓大	青江楓大
阿久澤潤恋	横田舞莉	青江楓大	青江楓大	青江楓大	青江楓大	青江楓大	青江楓大	青江楓大	青江楓大	青江楓大	青江楓大
佐藤利津	高橋文	大形一加	高橋仁	中田瑛士	長尾大成	前田知摩	中島陽架	高木琴邑	漆田咲希	杉澤澤果	木村風来
高野留衣	小林詩歩	鍋島一心	近藤旭	伊藤彩葉	林桔平	吉川遼音	小野里幸春	小野里幸春	小野里幸春	小野里幸春	小野里幸春

秋の大祭後の主な祭典行事

即位礼当日祭

第41回杉並大宮菊花展

新年度神宮大旗幟布式並氏神社神符等奉戴式

臨時大祓(大嘗祭前二日大祓)

大嘗祭当日祭

月次祭並七五三祝祭

第29回杉並花笠祭り

大祓(年越大祓)

除夜祭

令和2年 歳旦祭

小笠原流臺目の儀・大的式

元始祭

古札焼納祭(とんど焼)

結婚式挙式者芳名(敬称略)

(令和元年5月1日〜令和元年8月31日)

副田雄太郎・佑季子 町野直紀・藍

平井経博・奈緒 佐藤真木・優花

阿部真凛	大日向紘衣	田中碧人	赤石聡太
中村瑞樹	細川大輝	生形紗染	榎原琴音
小澤一絆	鈴木達樹	小高蒼真	遊橋未桜
堀田実花	坂下桂菜	畑山慶多	早坂充紘
末次広樹	金子三則	岡本理玖	藤森碧波
青山弦生	水上紡	山松禾椰	岡崎咲千
江利川陸	加藤充騎	中村羽花	玉置琴音
吾妻凜心	船引一	板橋礼人	森澤瑛人
山本新大	浅田康太	濱田日奈子	近藤一花
青柳湊斗	小泉介	田畑凱士	小原朝日
阿部朔也	日野初音	鈴木律	大島侑久
毛利美尊	平井あお	清水悠誠	丸山陽万莉
高橋青嶺	松川恵美	平田みな美	五藤諒馬
今井美月	大沢不子	倉澤花音	笠原萌々花
木村帆花	海東湊斗	土井美実	シミット阿蓮
渡邊詩己	篠原隆太郎	大宮瑠久	佐々木杏
舟山結理	松本惟叶	永井結	

奉祝 令和御大典

大宮八幡祭り(秋の大祭) 9月13日~16日

例祭・氏子奉幣祭 [15日 午前10時]



宮司祝詞奏上



氏子幣の供進



蘭陵王の奉奏(佼成雅楽会)

第34回 神輿合同宮入り [15日 午後6時発輿]

[16日]



神輿渡御(宮入り)



江戸消防記念会の木遣りで参入



いけばな小原流献花式(前回平成25年斎行)

氏子町会神幸所

大宮地区

大宮宮元會神幸所

方南地区(南・北)

峰睦会神幸所

方南新栄若睦会神幸所

泉南睦神幸所

方南西神幸所

方南東神幸所(上)

方南東神幸所(下)

和田地区(東・西)

和田睦会神幸所

和田敬神会神幸所

和田仲組神幸所

和田南神幸所

和田東神幸所

松ノ木地区

松ノ木睦会神幸所

奉納神賑行事



園児民謡踊り [14日]



杉並太鼓 [14日]



方南エイサー踊り [14日]



小笠原流草鹿式 [15日]



高井戸囃子 [15日]



野点茶会 [15日]

大 宮 第115号

令和元年 秋の大祭号

令和元年9月1日発行

大宮八幡宮社務所

〒168-8570

東京都杉並区大宮2-3-1

電話(3311)0105 FAX(3318)6100

Mail: info@ohmiya-hachimangu.or.jp